

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境					0.40			3.3
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
	1 室内騒音レベル			3.0	1.00	-	-	
	2 設備騒音対策			-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
	1 開口部遮音性能			3.0	0.30	3.0	-	
	2 界壁遮音性能			3.0	0.30	3.0	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.20	3.0	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
	1 室温			3.0	0.60	-	-	
	2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-	
	3 外皮性能			3.0	0.40	-	-	
	4 ゾーン別制御性			-	-	-	-	
	5 温度・湿度制御			-	-	-	-	
	6 個別制御			-	-	-	-	
	7 時間外空調に対する配慮			-	-	-	-	
	8 監視システム			-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用				4.6	0.30	-	-	
	1 昼光率		南面の窓を大きくとり、十分な採光を確保している。	5.0	0.60	-	-	
	2 方位別開口			-	-	-	-	
	3 昼光利用設備		ライトシェルフを採用している。	4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
	1 照明器具のグレア			-	-	-	-	
	2 昼光制御		カーテンと庇を設置している。	4.0	1.00	-	-	
	3 映り込み対策			-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気環境				3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
	1 化学汚染物質		F 材料を全面的に使用している。	4.0	1.00	-	-	
	2 アスベスト対策			-	-	-	-	
	3 ダニ・カビ等			-	-	-	-	
	4 レジオネラ対策			-	-	-	-	
4.2 換気				4.0	0.30	-	-	
	1 換気量		建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上の換気量を確保している	5.0	0.33	-	-	
	2 自然換気性能		換気量を確保している。	4.0	0.33	-	-	
	3 取り入れ外気への配慮		自然換気が居室面積の1/15を満たしている。	3.0	0.33	-	-	
	4 給気計画			-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
	1 CO ₂ の監視			1.0	0.50	-	-	
	2 喫煙の制御		県条例により全館禁煙となっている。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
	1 広さ・収納性			-	-	-	-	
	2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
	3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
	1 広さ感・景観		教室の天井高を2.9mとした。	5.0	0.50	-	-	
	2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
	3 内装計画			3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計		着脱式の天井ルーバーユニットにより維持管理に配慮している。	4.0	0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
	3 衛生管理業務			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
	1 耐震性		重要度係数を1.25とした。	4.0	0.80	-	-	
	2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	
	1 躯体材料の耐用年数		コンクリートの評価方法基準、等級2としている。	4.0	0.23	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.23	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-	

2.4	信頼性		2.6	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	1.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性		3.4	0.29	-	-	3.4
3.1	空間のゆとり		4.2	0.31	-	-	
	1	階高のゆとり	階高3.9mとした。	5.0	0.60	-	-
	2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-
3.2	荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	-	
3.3	設備の更新性		3.1	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
	2	給排水管の更新性	着脱式の天井ル・ハユニットにより更新性に配慮している。	4.0	0.17	-	-
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
	6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮・快適性の向上		3.0	0.50	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.9
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	2.7
1	建物の熱負荷抑制		2.0	0.30	-	-	2.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3	設備システムの高効率化	冷暖房平均COPが1.15以上の熱源機器を採用している。	3.2	0.30	-	-	3.2
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	ERR=7.5%	3.0	-	-	
		集合住宅の評価		3.0	-	-	
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		3.0	0.15	-	-	3.0
	1.1	節水		3.0	0.40	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
		1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-
		2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.63	-	-	3.3
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	再生加熱アスファルト材	3.0	0.20	-	-
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	着脱式の天井ル・ハユニットにより改修時に再利用可能である。	5.0	0.24	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.22	-	-	2.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避		2.5	0.68	-	-
		1	消火剤	-	-	-	-
		2	発泡剤(断熱材等)	2.0	0.50	-	-
		3	冷媒	3.0	0.50	-	-
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	2.8
1	地球温暖化への配慮	建物周囲を緑化した。	3.1	0.33	-	-	3.1
2	地域環境への配慮		2.6	0.33	-	-	2.6
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		1.6	0.25	-	-
		1	雨水排水負荷低減	-	-	-	-
		2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-
		3	交通負荷抑制	1.0	0.33	-	-
		4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.33	-	-
3	周辺環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-
		1	騒音	-	-	-	-
		2	振動	-	-	-	-
		3	悪臭	-	-	-	-
	3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		2.8	0.67	-	-
		1	風害の抑制	3.0	0.60	-	-
		2	砂塵の抑制	2.0	0.20	-	-
		3	日照障害の抑制	3.0	0.20	-	-
	3.3	光害の抑制		3.0	0.33	-	-
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-
		2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-